セ ン ト レ ア の 気 象（春号）

2021 年（令和 3 年）4 月

目　次

航空統合気象観測システムによる観測・・・・・・・・・・・・・・・・1～2

この資料に使用している時刻については、日本標準時（JST）を基準に作成しています。なお、協定世界時（UTC）を使用した場合は、その都度明記しています。

はれるん
気象庁マスコットキャラクター

中部航空地方気象台
Chubu Aviation Weather Service Center

航空統合気象観測システムによる観測

中部航空地方気象台では、空港気象観測システム（通称：AMOS）を航空統合気象観測システム（通称：AIMOS(Airport Integrated Meteorological Observing System)）に更新し、令和 3 年 3 月 25 日から運用を開始しました。その概要について紹介します。

1　経緯

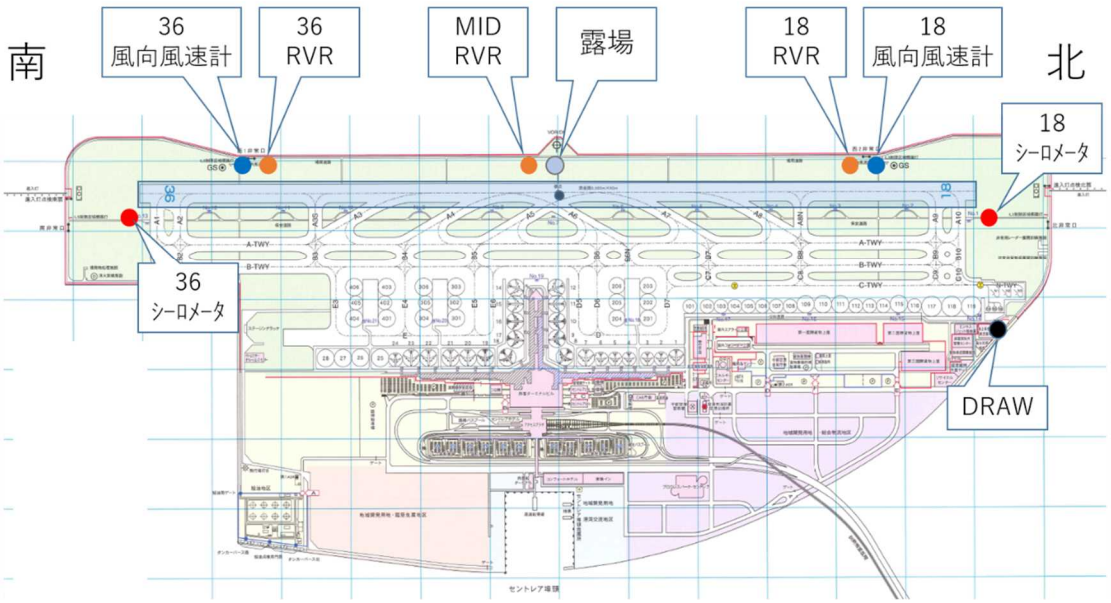
気象庁では、平成 28 年度より全国の空港で AIMOS への更新が進められ、中部国際空港では令和 2 年度に更新工事が行われました。

従来の AMOS と同様、測器による自動観測に加えて人による目視観測を行い、空港内の管制官、空港管理会社、航空会社の運航担当者や全国の空港をはじめ、国内外の航空機の運航にかかわる機関や航空会社に配信されます。

2　観測機器の配置

AIMOS の観測機器（風向風速計、滑走路視距離観測装置（RVR）、温湿度降水観測装置、シーロメーター）は、それぞれ飛行場内の必要な場所に設置しています。従来の AMOS と同様、設置場所は図のとおりです。今回の更新で観測機器を一新しました。

AIMOS 配置



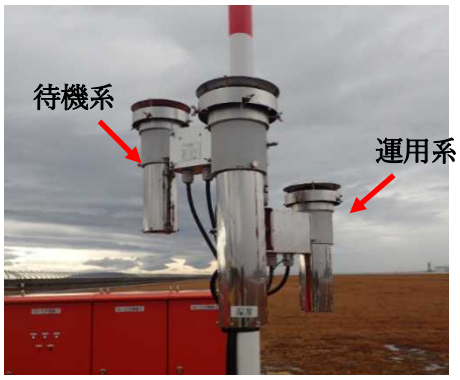
3　AMOS から AIMOS への更新に伴う主な変更点

（1）滑走路視距離観測装置（RVR）の観測精度向上

AMOS では気象光学距離（MOR）が最大 25ｋｍでしたが、AIMOS では 75ｋｍまで拡大されています。さらに、滑走路視距離の上限値が 1800m から 2000ｍに拡大されました。また、滑走路視距離 50～400ｍにおける観測値が、50ｍ刻みから 25ｍ刻みへと細かくなりました。

（２）温度計の二重化

温度計を二重化し、２つの通風筒に電気式温度計をそれぞれ１本ずつ収めて観測することで、一方の運用を保ちながら点検や障害対応ができるようになりました。これにより、点検や障害の際、気温データの欠測を回避できます。



温度計

（３）風向風速計の高性能化

滑走路両端の地上約 10ｍの高さに設置されています。従来の AMOS と同様、運用系と待機系の２台が設置されており、運用系の障害時には自動的に待機系に切り替わります。検出部は永久磁石を使用し、これまでの光による検出に比べて検出部の障害が発生しにくい仕様となっています。さらに、温風式防氷装置が加わり、感部内部に温風を送って凍結を防止しているため、冬季でも安定した観測が継続されます。

風向風速計

風向風速計

４　最後に

AIMOS の整備工事や運用切替えに際して、中部国際空港の皆さまには多大なご支援とご協力をいただき、無事に運用を開始することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後も安定かつ正確なデータ提供を通じて、航空機の安全で効率的な運航を支援して参ります。

編　集　：　中部航空地方気象台
発　行　：　中部航空地方気象台
発行日　：　2021 年（令和 3 年）6 月 3 日
〒479-0881
常滑市セントレア一丁目１番（大阪航空局中部空港事務所庁舎）
TEL 0569-38-0002
中部航空地方気象台ホームページ
https://www.jma-net.go.jp/chubu-airport/